

Environmental Initiatives

環境活動報告

CONTENTS

第6次環境中期計画	1
環境目標と実績	2
環境マネジメント	4
気候変動対応	5
循環型社会	8
環境汚染予防	9
生物多様性／イニシアチブへの賛同	10
外部認証	11
非財務データ一覧	12
環境負荷データ	15



本書の位置付け:

対象範囲: 住友重機械工業(株)および国内・海外の連結子会社、持分法適用会社を対象としています。
なお、対象が異なる場合は、その旨を記載しています。

対象期間: 2022年1月1日～2022年12月31日

参考 GL: 環境報告ガイドライン(2018年版):環境省
環境会計ガイドライン(2005年版):環境省

将来予測に関する注意事項:

本報告に記載されている将来の業績に関する予測や見直しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。従って実際の業績は、さまざまな要因の変化により、記載の予測・見直しとは異なる場合があります。

Copyright © Sumitomo Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

企業情報		技術情報 住友重機械 技報
財務	非財務	
統合報告書		
有価証券報告書	コーポレート・ガバナンス報告書	
中間報告書「株主のみなさまへ」	環境活動報告	
ウェブサイト「株主・投資家の皆様へ」	ウェブサイト「サステナビリティ」	

第6次環境中期計画

住友重機械グループ(以下、当社グループ)は、製品とサービスを通じて社会課題解決と企業価値向上に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、2020年度より第6次環境中期計画(2020～2023年度)を推進しています。第6次環境中期計画では以下の4つを重点課題とし、CO₂排出量の削減では気候変動対応として製品製造時のCO₂排出量の削減とサステナビリティプラス製品の拡大(製品使用時のCO₂排出量削減)に取り組んでいます。

(1)環境リスクマネジメントの強化

環境事故未然防止と環境マネジメントシステムの継続的な改善・活性化に取り組めます。

(2)気候変動対応を意識したCO₂排出量の削減

「製品ライフサイクルにおける環境負荷」の中で、最も大きな環境負荷(特に気候変動対応)の一つである

「CO₂排出量の削減」について、製造時と製品使用時両面で取り組みます。

当社グループでは、中長期目標として以下の内容を設定しています。

- ・2050年までに当社グループ全体でのカーボンニュートラル(CO₂排出量実質ゼロ)を目指す。
- ・製品製造時のCO₂排出量(Scope 1、2^{*1}):2030年までに50%削減(2019年度比)
- ・製品使用時のCO₂排出量(Scope 3 カテゴリ11^{*1、2}):2030年までに30%削減(2019年度比)

それに伴い、従来の活動に加え、太陽光発電設備の導入・再生可能エネルギーの購入など、より積極的な活動に取り組んでいます。

(3)事業活動における環境負荷軽減

海洋プラスチック問題への貢献、廃棄物、製品梱包材の3Rなど、「製品ライフサイクルにおける環境負荷」の中で、

「CO₂排出」以外の事業活動に伴う「環境負荷軽減」に取り組めます。

(4)生物多様性の保全

サステナビリティプラス製品による社会貢献により、生物多様性の保全に取り組めます。

※1 GHGプロトコルに準じ算定。

※2 カテゴリ11以外のScope 3排出量は、実態把握のうえ、今後目標設定に向けた検討を進めています。

環境管理活動の推移(2005～2022)



環境目標と実績

2022年度の目標と実績

第6次環境中期計画における2022年度15項目に対し、環境事故・CO₂排出総量(国内)を除く13項目の目標を達成しました。未達の要因は以下です。

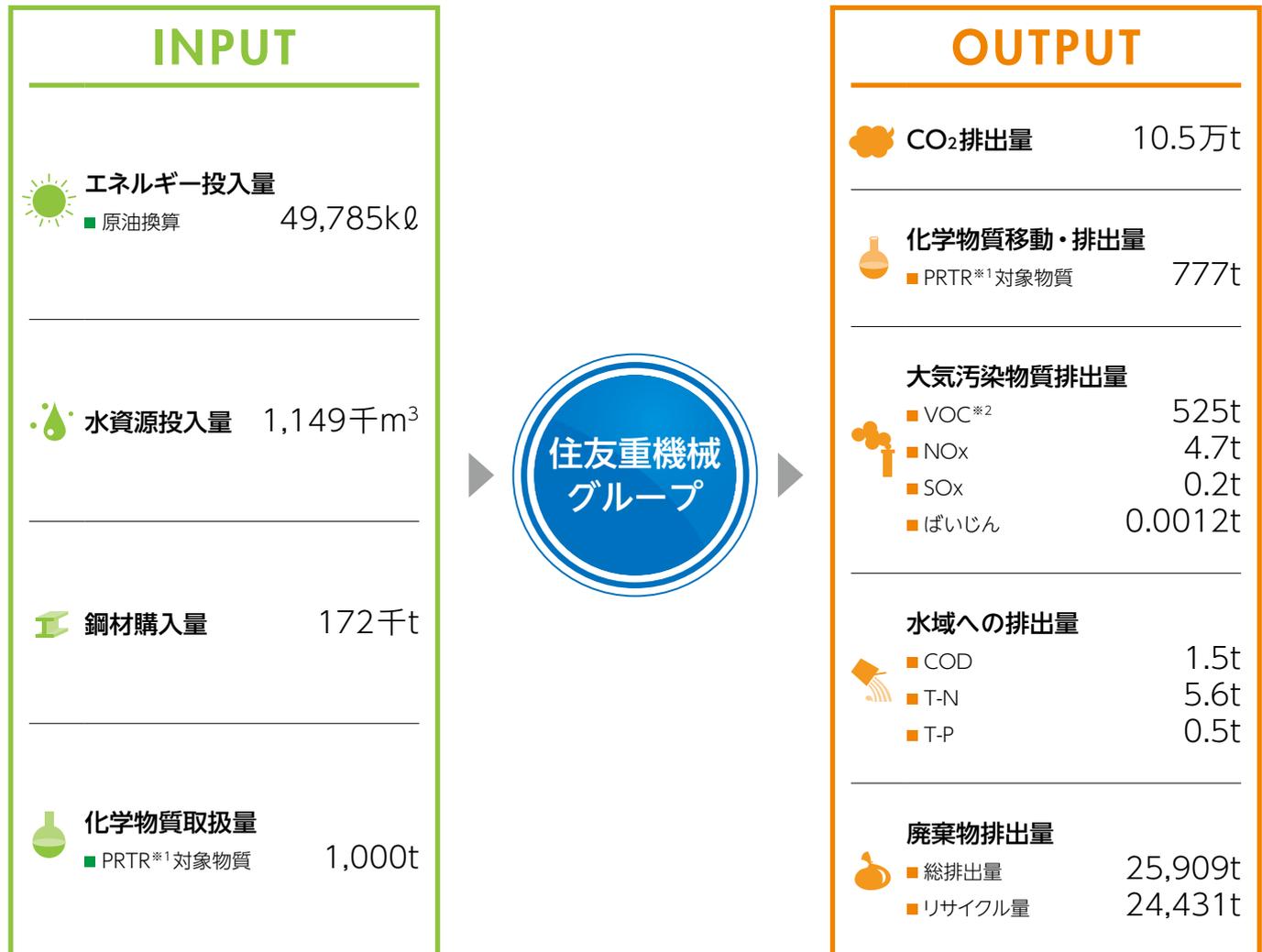
- ・環境事故：重大環境事故は発生しませんでした。環境事故が6件発生し中期計画目標未達となりました。機器からの油類・化学物質・汚水等の漏洩発生については、中でも設備故障などによる物理的要因が多く、定期的なメンテナンスやパトロール、計画的な修理等の確実な実施とともに環境教育や作業手順書の見直し、環境リスクアセスメントの見直し実施等を展開しています。また、法令改正等に伴う届出不備や敷地外への塗装ダスト飛散による車両被害等の環境事故も発生しています。該当拠点での確認体制の強化、他拠点への水平展開、再発防止対策の徹底と継続的な実施に努めてまいります。
- ・CO₂排出総量(国内)：各ビジネスユニットの削減施策実施によって19年度比4%程度の削減効果があったものの、それ以上の操業増や新工場棟の稼働等により全体の排出量は19年度比2.3%削減に留まりました。

その他の項目につきましては、P5以降に記載しています。

指標	項目	2022年度目標	2022年度実績
環境マネジメント	重大環境事故	ゼロ	0件
	環境事故	3件以下	6件
気候変動対応	CO ₂ 排出総量(国内、マーケット基準)	19年度比3%削減	2.3%削減
	生産時/エネルギー生産性(国内)	19年度比3%向上	9.2%向上
	生産時/エネルギー生産性(海外)	19年度比3%向上	17.3%向上
	輸送時/グリーン物流(国内)	19年度以下維持	5.9%削減
	サステナビリティプラス製品の拡大	認定数 23件	認定数 27件
省資源リサイクルの推進	廃棄物排出量原単位削減(国内)※有害廃棄物を含む	17~19年度平均以下維持	24.0%削減
	廃棄物排出量原単位削減(海外)※有害廃棄物を含む	19年度比3%削減	18.5%削減
	ゼロエミッション 埋め立て率(国内)	0.5%未満	0.1%
	製品梱包材の削減(国内 原単位)	17~19年度平均以下維持	1.4%削減
	水使用量の削減(国内)	17~19年度平均以下維持	3.9%削減
	水使用量原単位削減(海外)	19年度以下維持	13.1%削減
環境汚染予防	VOC削減(国内)	19年度以下維持	9.1%削減
	VOC削減(国内 原単位)	19年度以下維持	18.8%削減

環境目標と実績

2022年度の環境負荷の全体像(当社グループ国内)



※1 PRTR:環境汚染物質排出移動登録(Pollutant Release and Transfer Register)
 ※2 VOC:揮発性有機化合物(Volatile Organic Compounds)

環境マネジメント

住友重機械グループ環境方針

基本的な考え方

当社グループは、持続可能な社会の実現に向け、地球規模の環境保全及び気候変動問題への対応が重要課題の一つであると認識し、サステナビリティ基本方針に基づき、製品ライフサイクル全体を含む全ての事業活動における環境負荷低減に努めます。

環境方針

1. 地球環境の保全を図り、環境汚染の予防に努めます。
2. 脱炭素社会・循環型社会の実現に向け、CO₂排出量削減や廃棄物削減、資源の再利用・リサイクル、エネルギーの効率的利用等の環境負荷低減に取り組みます。
3. 事業活動に伴う自然・生態系への影響に配慮し、生物多様性の保全を図ります。
4. 環境管理体制を強化し、環境管理システムを継続的に運用・改善します。
5. 環境関連法令等の遵守にとどまらず、必要に応じて自主基準を定め運用、評価します。
6. 継続的な環境教育や啓発活動により、事業活動に関わる全ての者の環境意識の向上を図ります。
7. 本環境方針は全てのステークホルダーと共有し、周知・開示します。

住友重機械工業株式会社
2021年12月1日

環境マネジメント体制

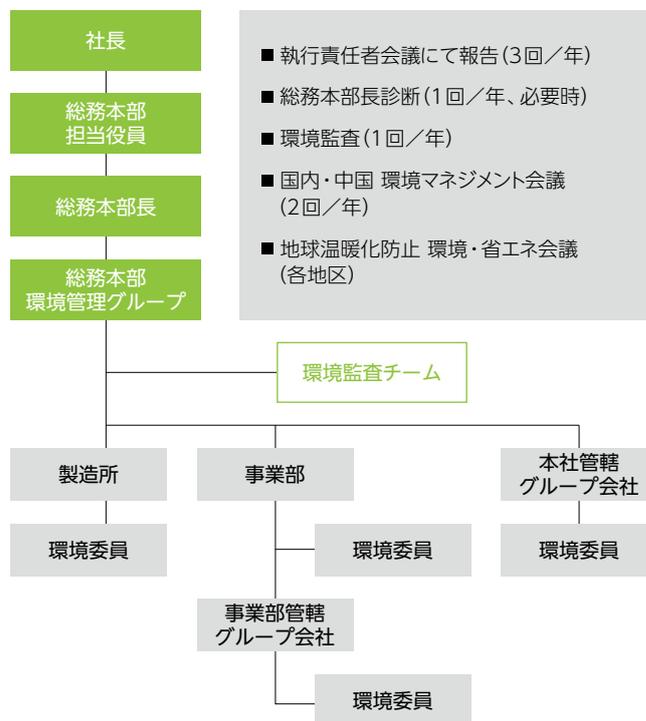
当社グループ全体の環境活動マネジメントは、社長からの任命を受けた総務担当役員の下、総務本部長および環境管理グループによって行われています。社長は最高責任者として住友重機械グループの環境方針を決裁し決定します。

関係会社を含む各製造拠点での管理状況は、現地の状況確認と併せて環境監査を実施し、環境マネジメント会議では活動結果の報告や問題点などを共有しています。また環境教育を通じて当社グループの環境方針や環境目標、取り組みなどを従業員に周知しています。

<活動内容>

・環境監査(1回/年)

国内および中国・東南アジアの製造拠点を対象に環境事故防止、法令遵守、気候変動対応等の観点から環境マネジメント全体について監査を実施しています。



- 執行責任者会議にて報告(3回/年)
- 総務本部長診断(1回/年、必要時)
- 環境監査(1回/年)
- 国内・中国 環境マネジメント会議(2回/年)
- 地球温暖化防止 環境・省エネ会議(各地区)

監査結果は、当社独自の評価基準で部門ごとに5段階評価した結果を執行責任者会議で報告し、レベルアップを図っています。

・総務本部長診断(必要時)

総務本部長が必要と判断した部門(前年度の環境事故発生部門、環境目標が著しく未達の部門など)を対象に、「総務本部長診断」を環境監査と併せて実施・指導しています。

・環境マネジメント会議(2回/年)

国内の各製造所・関係会社を対象に「環境マネジメント会議」を開催し、活動結果の報告や問題点などを共有しています。また、中国の関係会社を対象に「中国環境マネジメント会議」を開催し、各社の環境活動のレベルアップを図っています。

環境リスクアセスメント

当社グループでは、環境事故の発生を未然に防ぐため、定期的な環境リスクアセスメントを実施しています。

また、万が一環境事故が発生した場合は、適切な対処を行うとともに事故内容を分析し、関係各所に水平展開するなど類似事例の発生や再発防止に努めています。

環境事故に至らないまでも将来的に環境事故につながる可能性のある事象については、「環境ヒヤリハット」として環境事故発生の防止を強化する運用を行っています。

気候変動対応

当社グループでは、製品ライフサイクル全体を含む全ての事業活動における環境負荷低減の中で、CO₂排出量の削減を最重要課題として取り組んでいます。

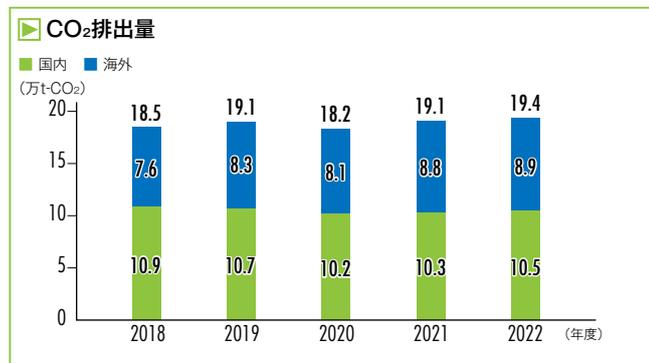
環境経営の推進

当社グループでは、気候変動対応を環境経営の重要課題と位置付けており、各事業部門の結果は環境管理グループで毎月管理され、事業責任者にフィードバックされます。また、執行責任者会議で、年に3回経営層に報告されます。各事業部門は、「全員参加」による取り組みと活動の「見える化」、さらにエネルギーの効率的使用を一層高めるための様々なプロセスの改善活動に取り組み、気候変動対応を推進しています。

製品製造時CO₂排出量の削減

当社グループ国内での、2022年度製品製造時CO₂排出量は2019年度比2.3%削減となり、目標未達となりました。省エネ活動やLED化、老朽機器の更新等を推進し、エネルギー生産性を向上を行ってきたものの、新工場の稼働など事業拡大の影響があり、目標達成に及びませんでした。

2023年度は、引き続き省エネ設備への更新、エネルギー生産性の向上等CO₂排出量の削減活動を進めていくとともに、削減施策の再検討、再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組んでいきます。



※ 国内換算係数0.462g-CO₂/kWhを固定で使用。

資源エネルギー庁長官賞受賞

2022年度は、住友重機械ハイマテックスの熱処理炉のエネルギー原単位およびCO₂削減の取り組みが、一般財団法人 省エネルギーセンター主催の省エネ大賞において、「資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。

圧延ロール生産プロセスで使用する全ての熱処理炉の燃料転換(重油→LNG)を進め、活動前の2017年比でエネルギー原単位を15%向上、CO₂排出量を27%削減し、製品製造時CO₂排出量削減に大きく寄与しています。



再生可能エネルギー導入

当社グループでは、再生可能エネルギーの導入を推進しています。2020年からは、当社グループの工場の新規建屋への太陽光発電設備の設置も進めています。2022年度には新たに2,200kWhが稼働し、累積規模は3,600kWh相当となりました。

引き続き、中間指標である「2030年までに2019年度比50%削減達成」のため、国内・海外両方で積極的な設備導入を実施していきます。

また、再生可能エネルギーの購入についても、計画的な購入・検討を実施しており、購入規模を拡大しています。各種省エネ施策による年1%のCO₂排出量の削減とともに、新規建屋を中心とした太陽光発電設備の導入、再生可能エネルギーの購入規模拡大等を図り、2050年カーボンニュートラルの実現に向けてCO₂排出量の削減を推進します。

エネルギー生産性の向上

当社グループでは、排出量だけでなく、エネルギー生産性(売上高/CO₂排出量)の指標を設定・管理することで、生産効率を高め、CO₂排出量削減を図る活動も行っています。2022年度は2019年度比3%向上を目標に掲げて活動し、国内では9.2%向上、海外でも9.6%向上と目標を達成しました。

今後も、下記の対策を推進します。

- ① 一斉休止日の設定と実践
- ② 設備の待機電力削減
- ③ 設備の効率的な運用
- ④ 製作リードタイム短縮によるエネルギー使用量の削減



グリーン物流の推進

製品輸送における無駄の排除や効率化により、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。2022年度の国内実績は、輸送原単位(t-CO₂/重量)で2019年度以下の維持目標に対して5.9%削減となり、目標を達成しました。引き続き、積載率の向上・最適化、混載便の有効活用等の活動を継続します。



ライフサイクル全体のCO₂排出量と製品使用時CO₂排出量の削減

2022年度のライフサイクル全体のCO₂排出量は8,075.6万tであり、そのうち製品使用時のCO₂排出量は7,994.7万tと全体の99.0%を占めています。この製品使用時CO₂排出量削減のため、製品改良・技術開発などを積極的に進め、省資源・省エネルギー等に優れた製品をより多く提供していきます。これらの省資源・省エネルギーに優れた製品提供の拡大が、気候変動対応としての重要な事業課題と認識し、活動を推進していきます。

サステナビリティプラス製品

当社グループでは、製品を環境性・社会性の11項目および外部表彰による加点を含めて評価し、80点以上の製品を「サステナビリティプラス製品」、90点以上の製品を「スーパーサステナビリティプラス製品」として認定しています。

2022年度は、目標件数である23件を上回り、27件がサステナビリティプラス製品として認定され、そのうち4件がスコア90点以上のスーパーサステナビリティ製品でした。エントリー数、認定数ともに年々増加しています。

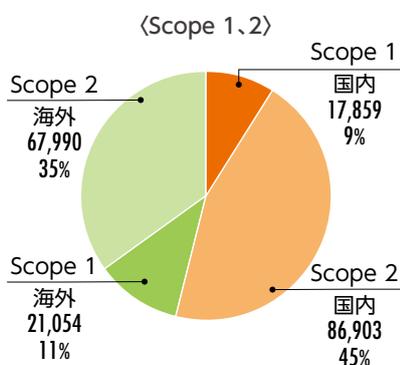
グループ全体におけるサステナビリティプラス製品の売上高比率は23%となっています。

サステナビリティプラス製品では製品ライフサイクル全体での環境負荷を低減するための活動として、装置廃棄に係るマニュアル整備・お客様への提供や、ショベルやクレーンなどの建設機械にフィールドビューモニタを装備することによる作業関係者の安全性向上等に取り組んでいます。また、システム提供など、ソフトの面においても、お客様の業務効率化・省人員化への貢献を進めています。

サステナビリティプラス製品 評価項目

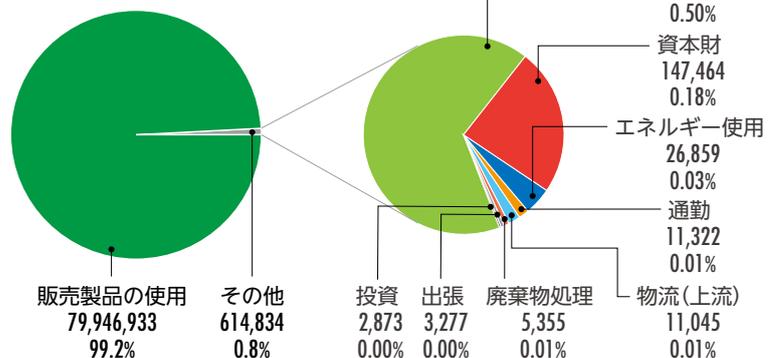
製品状況		製品の一流商品化	
		差別化	
環境	資源循環	1. 省資源	地球温暖化
		2. 廃却時の再資源化の向上 (分別処理の容易化)	環境リスク
		3. 長寿命化	その他
		4. 梱包・包装	9. LCA (ライフサイクルアセスメント)
		5. 情報の提供	10. 安全性
		6. 使用時における省資源対策	11. 自動化・省力化

2022年度ライフサイクルCO₂排出量 (t-CO₂)



※上記はScope 1, 2全体に対する割合

Scope 3



※上記はScope 3全体に対する割合

Scope 1+2	193,806
Scope 3	80,561,766
ライフサイクル全体のCO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	80,755,572

気候変動対応

サステナビリティプラス製品 登録機種一覧

登録区分	部門名	セグメント	製品	評価項目			
				環境			社会
				資源循環	地球温暖化対策	環境リスク	安全性・省力化
スーパーサステナビリティプラス製品	住友建機(株)	L&C	油圧ショベル	◎	○	◎	○
	住友建機(株)	L&C	アスファルトフィニッシャー	◎	◎	◎	○
	エネルギー環境事業部	E&L	小型25tCFB	○	○	◎	◎
	住友重機械エンパイロメント(株)	E&L	揚砂装置	○	◎	△	△
サステナビリティプラス製品	パワートランスミッション・コントロール事業部	メカトロ	高効率モーター	△	◎	◎	△
	住友重機械ギヤボックス(株)	メカトロ	パラマックス減速機	○	○	◎	△
	プラスチック機械事業部	IM	電動射出成形機	△	○	◎	○
	産業機器事業部	IM	鍛造用サーボプレス	△	◎	◎	△
	住友重機械ハイマテックス(株)	IM	圧延用ロール	○	◎	◎	×
	住友重機械イオンテクノロジー(株)	IM	イオン注入装置 SAion-300	△	◎	◎	△
	住友重機械イオンテクノロジー(株)	IM	イオン注入装置 MC3-II/GP	△	◎	◎	△
	住友重機械イオンテクノロジー(株)	IM	イオン注入装置 S-UHE 14	△	◎	◎	△
	住友重機械イオンテクノロジー(株)	IM	イオン注入装置 SS-UHE II	○	◎	◎	△
	日本スピンドル製造(株)	IM	電気炉用集塵装置	△	◎	△	○
	住友重機械モダン(株)	IM	スマートフリッパー	△	○	◎	◎
	住友重機械搬送システム(株)	L&C	自動倉庫システム	△	◎	○	△
	住友ナコフオークリフト(株)	L&C	電気フオークリフト	△	◎	◎	×
	エネルギー環境事業部	E&L	バイオマスCFBボイラ	△	○	◎	◎
	エネルギー環境事業部	E&L	住友エバポレーターU	△	◎	◎	△
	エネルギー環境事業部	E&L	電気集塵機	△	◎	◎	△
	住友重機械エンパイロメント(株)	E&L	垂直スクリー式除塵機	△	◎	△	○
	新日本造機(株)	E&L	長翼高効率機	○	○	△	△
	新日本造機(株)	E&L	最適反動翼列搭載機	○	○	△	△
	(株)イズミフードマシナリ	E&L	多機能抽出装置	○	◎	◎	○
	(株)イズミフードマシナリ	E&L	機能性タンク	△	◎	◎	△
	(株)ライトウェル	その他	自動審査システム	○	○	×	△
	(株)ライトウェル	その他	個人信用情報照会システム	△	◎	◎	○

※ メカトロ:メカトロニクス IM:インダストリアルマシナリー L&C:ロジスティクス&コンストラクション E&L:エネルギー&ライフライン 90%以上◎、70~90%○、30~70%△、30%未満×



CFBバイオマスボイラ(循環流動層ボイラ)



油圧ショベル(例:SH250-7)



揚砂装置(スミジェッターII型)

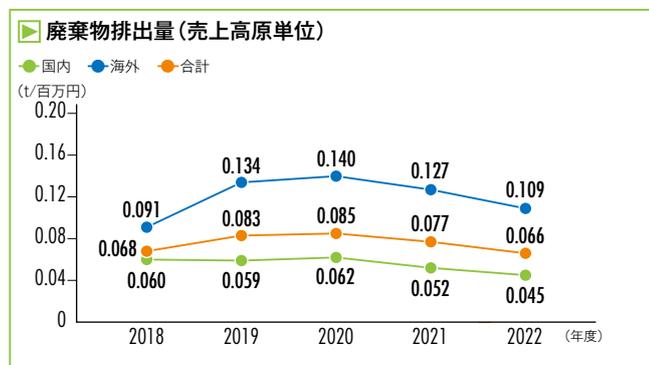
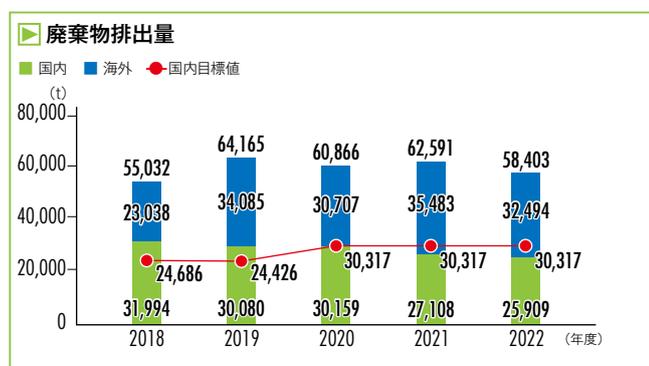
循環型社会

循環型社会の実現に向けて、事業活動から排出される廃棄物などの排出抑制、再資源化・有効利用などに努め、環境負荷の低減に取り組んでいます。

廃棄物排出量の抑制

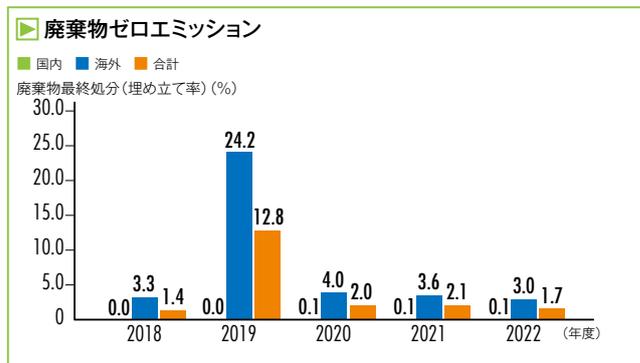
2022年度の廃棄物排出量(有害廃棄物を含む)の売上高原単位について、国内では17~19年度平均以下の維持の目標に対して24.0%の削減となりました。産業廃棄物として処分していたショット粉屑を売却有価処分に変更したことや、ろ過装置を通した試運転油の再利用などが排出量の削減につながりました。今後も、廃棄物やリサイクルの分別を徹底するなどして3Rを意識した廃棄物の削減を推進します。

海外では、2019年度比3%削減を原単位目標として活動し、2022年度は18.6%の削減となりました。



ゼロエミッション(埋め立て率削減)

当社グループは、国内では廃棄物排出量に占める埋め立て処分量の割合(埋め立て率)が0.5%未満の工場をゼロエミッション工場と定義し、2005年度から埋め立て率削減活動を推進しています。2022年度の国内全製造所(6製造所7工場)と製造所外グループ会社(9社)全体での埋め立て率は0.1%となり、2011年度以降継続してゼロエミッションを達成しています。海外では非埋め立て率95%以上を目標に活動していますが、2022年度は3.0%と目標を達成し、2022年度の国内・海外合算での埋め立て率は1.7%となりました。ゼロエミッションを達成するためには、廃棄物の分別によるリサイクルが重要です。今後もゼロエミッションを維持できるよう徹底した廃棄物の分別を行い、循環型社会に貢献する工場を目指します。



プラスチック資源循環促進法への対応

廃プラスチックについては、グループ全体での排出量及び売上高原単位で管理しています。

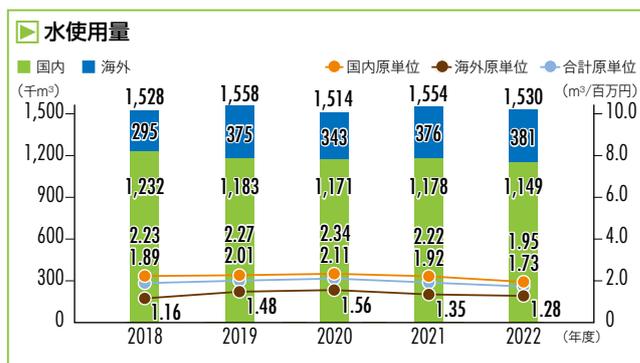
2022年度の住友重機械工業(SHI)単体でのプラスチック廃棄物排出量は、1,310tでした。

引き続き当社グループとしても、管理・削減活動を継続、プラスチック製梱包材の3R(Reduce、Reuse、Recycle)+Renewableを推進し、さらに製品の部材まで踏み込んだ対応などを検討し、サプライチェーンを意識した活動を目指します。

水使用量の削減

当社グループでは、これまで水使用量の削減を続けてきた結果、無駄な水の使用はほぼ無くなってきたものと判断し、第6次環境中期計画においても国内では引き続き前中期計画期間(2018-2019年)の平均使用量以下を維持するという目標を設定しました。

2022年度は監視装置の活用による漏洩防止やテスト装置の循環水利用による水削減を実施するなどして、目標に対して3.9%の削減となり目標を達成しました。引き続き無駄の排除に取り組むことにより目標達成を目指します。一方、海外でも売上高原単位について2019年度以下の維持目標に対して13.1%の削減となり、目標達成となりました。



環境汚染予防

環境汚染予防を図るため化学物質を管理しています。

有機塩素系化学物質の使用全廃

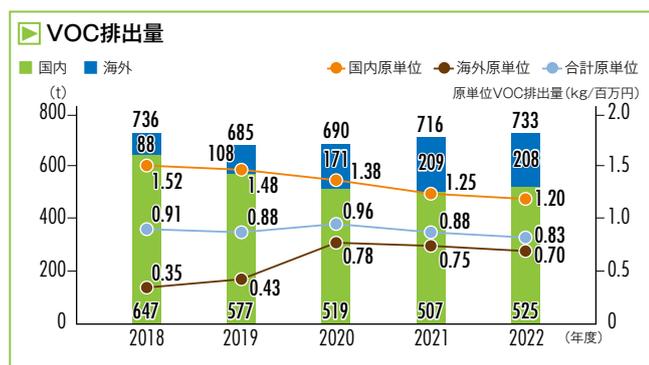
使用全廃を継続

土壌汚染対策法で対象となっている有機化学物質である、ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレンの使用全廃の取り組みを継続しています。

オゾン層破壊物質のHCFC-225は2008年度から、HCFC-141bは2010年度から使用を全廃しており、これを継続しています。2020年度に生産終了となったR-22についても、計画的な更新を推進しています。

VOC対象物質の排出抑制

当社グループ国内で使用しているVOC対象物質の90%以上は塗料の溶剤中に含まれるトルエン、キシレン、エチルベンゼンによって占められています。第6次環境中期計画ではこれらの排出量について2019年度以下の維持を目標に取り組んでいます。2022年度も粉体塗装の導入や低溶剤塗料、VOCを含まない洗浄剤の採用、塗装の効率向上による塗料の使用量の削減等により、2019年度比で9.1%削減となりました。また、売上高原単位においても18.8%削減となりました。今後も引き続き、低溶剤塗料やVOCを含まない洗浄剤の採用範囲並びに、粉体塗装の拡大、さらなる塗装の効率向上による塗料等の使用量の削減等により、排出量削減に努めます。また、海外でも2012年度から活動を開始し、第6次環境中期計画では排出量原単位について2019年度以下の維持を目標としています。



PRTR対象物質の排出・移動量

PRTR対象物質の90%以上は塗料の溶剤(トルエン、キシレン、エチルベンゼン)です。第6次環境中期計画では排出量、排出量原単位とも2019年度以下の維持を目標に取り組んでいます。2022年度は2019年度比で7.2%削減しました。また、売上高原単位においては18.1%と大幅削減となりました。品質を維持しつつ低溶剤塗料の適用を拡大するとともに、溶剤回収除去設備の設置・拡大により、排出・移動量の削減に取り組みます。

2022年度PRTR法第1種指定化学物質の排出量・移動量 (届出対象物質)

(単位:kg)

化学物質の番号	化学物質の名称	排出量+移動量				
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
53	エチルベンゼン	218,658	221,964	233,310	230,021	235,686
80	キシレン	498,744	392,357	342,269	361,802	365,152
240	スチレン	2,050	1,561	975	1,647	2,008
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	16,901	18,843	17,915	21,058	22,023
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	5,559	5,389	4,594	6,072	6,127
300	トルエン	156,262	141,755	122,357	122,457	103,517
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	17,555	22,381	12,017	11,683	12,552
384	1-プロピロプロパン	11,122	11,474	7,934	13,714	10,701
392	ノルマルヘキサン	866	321	105	158	110
405	ほう素及びその化合物	1,618	1,155	1,778	1,439	1,586
412	マンガン及びその化合物	12,366	12,011	10,743	12,020	10,493
420	メタクリル酸メチル	1,366	564	232	256	250

※ 排出量+移動量は、住友重機械とグループ各社の合計。



PCBの管理および使用機器の全廃

高濃度PCB含有機器は全て処理会社である中間貯蔵・環境安全事業株式会社に早期登録済みで、PCB特別措置法に基づき計画的に無害化処理を行っています。PCB含有トランスと照明器具のPCB含有安定器は順次更新・処理を実施し、一部の製造所、関係会社では全ての処分が完了しています。また、低濃度PCB含有機器は調査を完了し、順次期限までの処理を進めています。

生物多様性

田無「発想の森」

田無製造所では、敷地面積の約30%を占める、「武蔵野の森」を保存しています。40種類もの樹木4,500本以上からなる森林で、この森の一部を「発想の森」と名付けて一般に開放しています。市民の安らぎの場所であるとともに、地域の防災拠点や生物多様性に関する学術研究対象などの機能を果たしています。



田無製造所敷地内「発想の森」

「富士山の森づくり」プロジェクト参画

公益財団法人オイスカに入会し、虫害により大規模な被害を受けた富士山の人工林を多様性のある強い森に再生することを目指した「富士山の森づくり」プロジェクトに参画、寄付と従業員参加の植林活動を行っています。



「富士山の森づくり」プロジェクト

イニシアチブへの賛同

経団連生物多様性宣言イニシアチブ賛同

当社グループは、継続可能な社会の実現に向け、企業の立場から生物多様性保全の問題に取り組む意思とその行動指針を示した、「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に賛同しています。

主な活動として、木材梱包の削減や海洋プラスチック問題への取り組み、製造所の緑地・植樹の推進を行っています。

Japan Climate Initiative 賛同

当社グループは、Japan Climate Initiative (JCI)による、「いまこそ再生可能エネルギーの導入加速を—エネルギー危機の中でも気候変動対策の強化を求め—」メッセージに賛同、1.5°C目標の実現に向けた世界のトップランナーとなるよう、自らの活動においてエネルギー効率化と再生可能エネルギー利用を加速するとともに、国内外の非国家アクター間の連携を深め、2050年のCO₂排出量実質ゼロの実現に貢献する取り組みを強めていきます。

外部認証

ISO14001 認証

当社グループでは、グループ環境方針のもと環境活動に取り組み、1998年から国内各製造所での認証取得を進めてきました。

2018年には環境マネジメントの運用ルール統一と認証維持の効率化を図るため住友重機械グループとして統一認証を取得、現在43サイトで認証を取得しています。

また、統一認証に含まれていない関係会社、海外関係会社についても各社個別で認証を取得しており、適正な環境マネジメントの運用に努めています。

認証サイトにつきましては、当社ホームページをご確認ください。

環境負荷データ第三者保証

当社グループでは、データの信頼性を高めるため、事業活動に伴う環境負荷データについて、ビューローベリタスジャパン株式会社より第三者保証を取得しています。

2022年度からは、範囲を海外関係会社まで拡大し、加えて原料調達・製造・物流・販売・廃棄などの事業活動に係る間接的なCO₂排出量 (Scope 3) についても保証を取得しています。*1

<対象範囲>

SHI-G 国内28拠点、海外42拠点

Scope 1、2、3 Cat. 1、2、3、4、5、6、7、11

<対象データ>

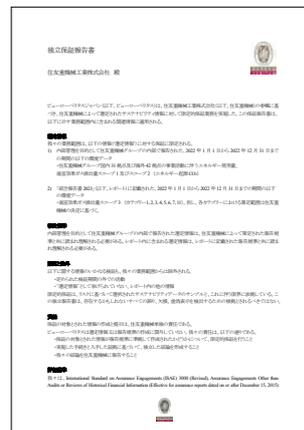
2022年度 エネルギー使用量(原油換算)*2

2022年度 エネルギー起源CO₂排出量*3

*1 東京都キャップ&トレード制度実績検証で認定済みの田無製造所を除く

*2 エネルギー使用量(原油換算):電力、都市ガス、LPG、A重油、ガソリン、軽油、灯油、温水・冷水

*3 エネルギー起源CO₂排出量:自社で使用した*2のエネルギーによるCO₂排出量



非財務データ一覧

【対象範囲】

住友重機械工業(株)および連結子会社、持分法適用会社を対象としています。
 なお、対象が異なる場合は、その旨を記載しています。

■ 気候変動への対応

評価項目(小分類)		単位	2018	2019	2020	2021	2022	備考	
CO ₂ 排出量	Scope 1+Scope 2 (マーケット)	国内	万t-CO ₂	10.9	10.7	10.2	10.3	10.5	
		海外	万t-CO ₂	7.6	8.3	8.1	8.8	8.9	
		合計	万t-CO ₂	18.5	19.1	18.2	19.1	19.4	
	Scope 1	国内	t-CO ₂	17,866	17,784	16,510	16,593	17,859	
		海外	t-CO ₂	19,807	22,417	20,519	21,287	21,054	
		合計	t-CO ₂	37,674	40,200	37,028	37,880	38,913	
	データカバー率		%	80.1	85.9	85.9	92.6	91.1	
	Scope 2(ロケーション)	国内	t-CO ₂	82,918	84,624	73,144	72,604	75,761	
		海外	t-CO ₂	56,174	60,927	60,091	66,575	69,045	
		合計	t-CO ₂	139,093	145,551	133,236	139,180	144,805	
	Scope 2(マーケット)	国内	t-CO ₂	91,521	89,451	84,997	86,449	86,903	
		海外	t-CO ₂	56,174	60,927	60,091	66,575	67,990	
		合計	t-CO ₂	147,695	150,378	145,088	153,024	154,892	
	データカバー率		%	80.1	85.9	85.9	92.6	91.1	
	Scope 1+2	ロケーション	t-CO ₂	176,767	185,751	170,264	177,059	183,719	
		マーケット	t-CO ₂	185,369	190,579	182,117	190,904	193,806	
	データカバー率		%	80.1	85.9	85.9	92.6	91.1	
	Scope 3	合計	t-CO ₂	496,016	226,077,535	123,561,961	137,175,145	80,561,766	
	データカバー率		%	91.5	97.9	96.8	96.5	94.6	Cat-11のみ
	Cat-01 原材料		t-CO ₂	312,242	313,670	356,805	351,365	406,638	国内一部のみ
Cat-02 資本財		t-CO ₂	143,234	165,751	128,805	154,343	147,464		
Cat-03 エネルギー使用		t-CO ₂	9,949	20,162	20,280	21,349	26,859		
Cat-04 物流(上流)		t-CO ₂	11,984	11,562	11,046	11,082	11,045	海外除く	
Cat-05 廃棄物処理		t-CO ₂	8,679	6,958	5,767	5,578	5,355	海外除く	
Cat-06 出張		t-CO ₂	1,962	2,120	2,171	3,761	3,277		
Cat-07 通勤		t-CO ₂	5,723	6,006	6,179	11,138	11,322		
Cat-08 リース資産(上流)		t-CO ₂	0	0	0	0	0	Scope 1・2にて算定	
Cat-09 物流(下流)		t-CO ₂	-	-	-	-	-	Cat-04に含む、除外	
Cat-10 販売製品の加工		t-CO ₂	-	-	-	-	-	加工形態を特定できないため除外	
Cat-11 販売製品の使用		t-CO ₂	-	225,549,245	123,029,056	136,614,107	79,946,933		
Cat-12 販売製品の廃棄		t-CO ₂	-	-	-	-	-	算定方法検討中	
Cat-13 リース資産(下流)		t-CO ₂	-	-	-	-	-	算定方法検討中	
Cat-14 フランチャイズ		t-CO ₂	-	-	-	-	-	対象外	
Cat-15 投資		t-CO ₂	2,244	2,060	1,852	2,422	2,873	第三者保証対象外	
CO ₂ 排出原単位		百万円/CO ₂ -t	5.0	4.6	4.9	5.3	4.8		
エネルギー生産性	国内	百万円/CO ₂ -t	6.1	5.8	5.8	6.0	6.3		
	海外	百万円/CO ₂ -t	3.3	3.0	2.7	3.2	3.3		
エネルギー消費量	燃料消費量	国内	MWh	87,744	87,797	82,512	83,942	89,667	
		海外	MWh	106,655	120,824	110,345	111,781	109,637	
		合計	MWh	194,399	208,620	192,857	195,722	199,304	
	電力消費量	国内	MWh	166,762	166,135	161,081	167,290	164,323	
		海外	MWh	124,509	131,085	129,930	141,583	130,410	
		合計	MWh	291,271	297,220	291,011	308,872	294,733	
	冷温水	国内	MWh	1,357	1,203	1,197	1,113	1,159	
		海外	MWh	9,836	5,379	8,110	9,136	8,147	
	合計	MWh	11,193	6,582	9,307	10,249	9,306		
	データカバー率		%	80.1	85.9	85.9	92.6	91.1	
再生可能エネルギー使用量	国内	MWh	336	323	1,223	1,298	11,000		
		MWh	0	0	0	0	3,203		
		MWh	336	323	1,223	1,298	14,203		
	再エネ率	国内	%	0.20	0.19	0.76	0.78	6.69	
		海外	%	0.0	0.0	0.0	0.0	2.62	
データカバー率		%	80.1	85.9	85.9	92.6	91.1		
その他主要GHG	総量	国内	t-CO ₂	45.9	51.0	54.2	29.7	36.5	
	メタン(CH ₄)	国内	t-CO ₂	34.7	41.3	46.7	25.8	35.1	
	一酸化二窒素(N ₂ O)	国内	t-CO ₂	11.2	9.8	7.5	3.8	1.5	

非財務データ一覧

■ 廃棄物管理

評価項目(小分類)		単位	2018	2019	2020	2021	2022	備考	
廃棄物排出量	国内	t	31,994	30,080	30,159	27,108	25,909		
	海外	t	23,038	34,085	30,707	35,483	32,494		
	合計	t	55,032	64,165	60,866	62,591	58,403		
	データカバー率	%	83.6	85.6	85.5	84.2	84.5		
	リサイクル量(回収再利用廃棄物総重量等)	国内	t	31,905	24,860	29,686	25,843	24,431	リサイクル量、有価物
	エネルギー回収を伴う廃棄物焼却量	国内	t	3,986	4,048	2,497	2,702	2,506	
	エネルギー回収を伴わない廃棄物焼却量	国内	t	17	1,904	290	224	386	
	最終処分量	国内	t	10	1	16	27	33	
		海外	t	750	8,233	1,219	1,268	971	
		合計	t	760	8,234	1,235	1,294	1,004	
有害廃棄物排出量	排出量	国内	t	4,079	303	818	708	693	特別管理産業廃棄物
	エネルギー回収を伴う廃棄物焼却量	国内	t	—	—	235	222	209	
	エネルギー回収を伴わない廃棄物焼却量	国内	t	—	—	168	118	46	

■ プラスチック新法にかかる公表

評価項目(小分類)		単位	2018	2019	2020	2021	2022	備考	
排出量	排出量	国内	t	1,038	1,009	1,505	1,419	1,310	SHI単体
	エネルギー回収を伴う廃棄物焼却量	国内	t	401	427	509	435	437	SHI単体

■ 水資源保全

評価項目(小分類)		単位	2018	2019	2020	2021	2022	備考	
水使用量	国内	千m ³	1,232	1,183	1,171	1,178	1,149		
	海外	千m ³	295	375	343	376	381	全て上水	
	合計	千m ³	1,527	1,558	1,514	1,554	1,530		
	データカバー率	%	79.9	80.6	77.1	76.5	80.2		
	上水	国内	千m ³	420	385	382	362	355	
	工業用水	国内	千m ³	622	622	610	618	613	
	地表水	国内	千m ³	—	0	0	0	0	
	地下水	国内	千m ³	191	176	179	198	181	
排水量	データカバー率	%	50.9	51.3	51.6	47.5	43.6		
水域への排出量	COD	t	1.7	1.8	1.6	1.5	1.5		
	T-N	t	5.7	6.8	6.6	6.2	5.6		
	T-P	t	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		
	データカバー率	%	—	51.3	51.6	47.5	43.6		

■ 化学物質

評価項目(小分類)		単位	2018	2019	2020	2021	2022	備考	
VOC	総量	国内	t	647	577	519	507	525	
		海外	t	88	108	171	209	208	
		合計	t	736	685	690	716	733	
	データカバー率	%	87.4	87.8	88.6	86.0	87.2		
	エチルベンゼン	国内	t	167	155	158	149	154	
	キシレン	国内	t	351	301	262	258	280	
	トルエン	国内	t	129	122	99	100	91	

■ 環境マネジメント

評価項目(小分類)		単位	2018	2019	2020	2021	2022	備考
重大な環境事故の発生件数	全社	件数	0	0	1	0	0	9か月分
重大な環境法令違反の発生件数	全社	件数	0	0	0	0	0	9か月分
罰金・違約金などを支払った件数	国内	件数	0	0	0	0	0	100万円以上の罰金、料金を支払った案件
	海外	件数	0	0	1	0	0	10,000USD以上の罰金、料金を支払った案件
環境・省エネ関連の設備投資	環境関連	全社	百万円	416	826	573	490	547
	省エネ関連	全社	百万円	2,057	3,706	1,287	2,610	1,967
	合計	全社	百万円	2,473	4,532	1,860	3,100	2,513
外部評価	CDP	気候変動	—	B-	B	B-	B-	B
		水セキュリティ	—	B-	B-	C	B-	C
	ぶなの森	—	B	B	A	B	A	
	省エネ法評価	—	S	S	S	S	S	
	東京都特定テナント省エネ評価	—	AA	AA	AA	AAA	AA	
ISO14001認証取得	国内	件数	37	37	37	37	35	
	海外	件数	18	19	21	21	22	
	合計	件数	55	56	58	58	57	
取得比率	%	80.0	80.1	80.6	79.4	75.2		

2022年度の環境会計

当社グループでは環境保全に関わる投資・費用、効果を測る尺度として、環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」に基づいて環境会計を実施しています。

環境保全コストと効果(事業活動に応じた分類)

(単位:百万円)

分類		主な取り組み内容	環境保全コスト						環境保全効果			主な内容
			投資額			費用額			経済効果			
			2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度	
(1)事業エリア内コスト		環境負荷低減設備の維持・償却	1,241	808	768	840	1,010	1,209	225	381	501	
内訳	(1)-1 公害防止コスト	大気汚染、水質汚染防止設備の維持管理、騒音・振動の測定	689	207	71	245	253	189	0	0	0	
	(1)-2 地球環境保全コスト	省エネルギー対策投資(電力監視、省エネ機器、照明更新等)	515	593	682	40	112	110	25	93	170	省エネルギー・省資源、3Rによる費用削減
	(1)-3 資源循環コスト	廃棄物の削減、再資源化への投資(リサイクル、再生使用)	37	8	15	554	645	911	200	287	331	廃棄物削減による費用削減 有価物の売却額
(2)上・下流コスト		製品梱包材の削減、家電リサイクル、裏紙利用	0	1	1	0	2	2	0	0	0	
(3)管理活動コスト		ISO14001維持管理業務、緑地の拡大	1,352	13	16	125	155	132	—	—	—	環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)を別表で掲載
(4)研究開発コスト		製品の環境負荷低減のための研究・開発、環境機器の研究・開発	3,057	3,306	1,442	102	222	1,303	—	—	—	
(5)社会活動コスト		地域の環境保全、緑化活動	1	2	1	1	19	2	0	0	0	
(6)環境損傷対応コスト		大気汚染負荷量賦課金、緑地および公害補償負担金	—	—	—	0	1	0	0	0	0	
合計			5,651	4,129	2,228	1,068	1,408	2,648	225	381	501	

環境保全コストの直近3期間の推移表

(単位:百万円)

効果の内容	2020年度	2021年度	2022年度
環境保全コストの総額	6,719	5,537	4,876
投資額の総額	5,651	4,129	2,228
費用額の総額	1,068	1,408	2,648
研究開発費の総額	3,159	3,528	2,744

環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位:百万円)

効果の内容	2020年度	2021年度	2022年度	
収益	200	287	331	
費用節減	省エネルギーによるエネルギー費(電力費・燃料費)の節減	25	93	170
	省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の節減	1	1	0
	費用額(人件費、材料費、修繕費などの維持運営費)の削減	0	0	0
合計	227	381	501	

環境・省エネ関連の設備投資

2022年度の環境・省エネ関連の国内外の設備投資は、2,513百万円でした。エネルギー効率の向上や省エネの他、環境事故の未然防止の観点からも、新技術の設備導入や老朽化に伴う設備更新を計画的・積極的に実施しています。

(単位:百万円)

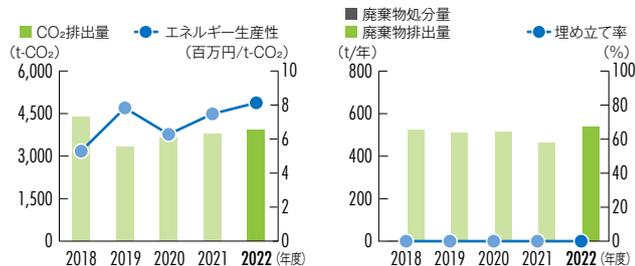
	2022年度 環境関係 設備投資金額		
	環境関連	省エネ関連	合計
国内	470	1,808	2,278
海外	76	159	236
合計	547	1,967	2,513

環境負荷データ

[各製造所における環境負荷データ]

田無製造所

■ 1938(昭和13)年開設 ■ ISO14001(1998年8月取得(統一)) ■ 敷地面積:40,706m²
 ■ 建屋面積:14,368m² ■ 主要製品:極低温装置、防衛装備品

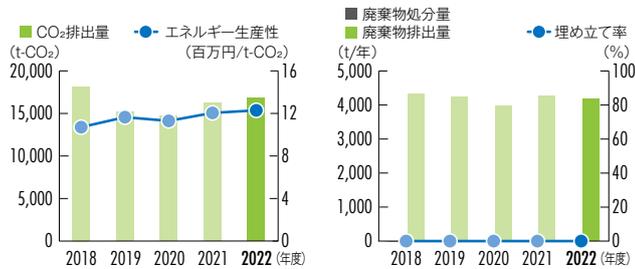


エネルギー使用量	
電力(千kWh)	8,481
ガソリン(kL)	0.03
灯油(kL)	0.54
軽油(kL)	1.91
A重油(kL)	0.00
LPG(t)	0.00
LNG(t)	0.00
都市ガス(千m ³)	1.96
水の使用量(m ³)	11,612

大気への排出量	
SOx(kg)	—
NOx(kg)	—

千葉製造所

■ 1965(昭和40)年開設 ■ ISO14001(1998年8月取得(統一)) ■ 敷地面積:297,039m²
 ■ 建屋面積:127,800m² ■ 主要製品:プラスチック加工機械、金型、油圧シヨベル

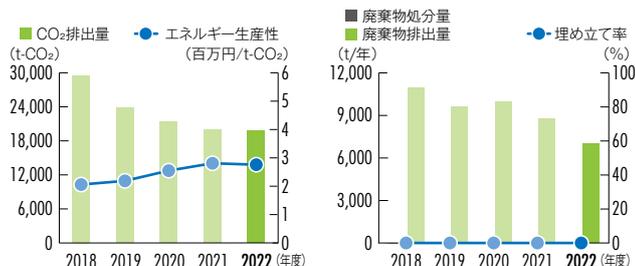


エネルギー使用量	
電力(千kWh)	23,459
ガソリン(kL)	196.48
灯油(kL)	0.49
軽油(kL)	755.03
A重油(kL)	0.00
LPG(t)	35.81
LNG(t)	0.00
都市ガス(千m ³)	1,548.05
水の使用量(m ³)	62,113

大気への排出量	
SOx(kg)	—
NOx(kg)	XXX

横須賀製造所

■ 1971(昭和46)年開設 ■ ISO14001(1998年8月取得(統一)) ■ 敷地面積:523,000m²
 ■ 建屋面積:170,635m² ■ 主要製品:ステージシステム、システム制御装置、レーザー加工システム、半導体製造装置(モールド装置)、精密鍛造品、船舶



エネルギー使用量	
電力(千kWh)	37,329
ガソリン(kL)	25.00
灯油(kL)	0.00
軽油(kL)	181.21
A重油(kL)	0.00
LPG(t)	11.32
LNG(t)	0.00
都市ガス(千m ³)	902.89
水の使用量(m ³)	131,680

大気への排出量	
SOx(kg)	—
NOx(kg)	451
水域への排出	
COD(kg)	374
窒素(kg)	268
リン(kg)	72

名古屋製造所

■ 1961(昭和36)年開設 ■ ISO14001(1998年8月取得(統一)) ■ 敷地面積:293,000m²
 ■ 建屋面積:90,000m² ■ 主要製品:変速機、ギャモータ、インバータ、建設用クレーン



エネルギー使用量	
電力(千kWh)	29,014
ガソリン(kL)	32
灯油(kL)	0.07
軽油(kL)	134
A重油(kL)	—
LPG(t)	6.2
LNG(t)	0.0
都市ガス(千m ³)	1,355.85
水の使用量(m ³)	141,514

大気への排出量	
SOx(kg)	—
NOx(kg)	30
水域への排出	
COD(kg)	364.7
窒素(kg)	44.7
リン(kg)	1.1

岡山製造所

■ 1948(昭和23)年開設 ■ ISO14001(1998年8月取得(統一)) ■ 敷地面積:425,000m²
 ■ 建屋面積:78,000m² ■ 主要製品:ギャボックス、工作機械、クーラントシステム

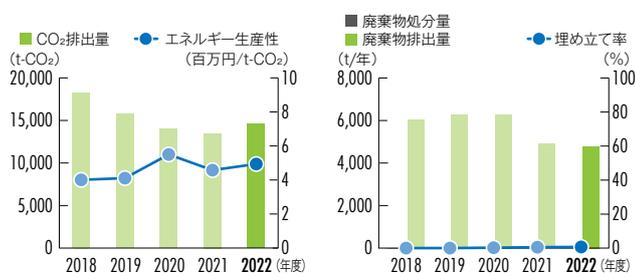


エネルギー使用量	
電力(千kWh)	5,029
ガソリン(kL)	2.73
灯油(kL)	0.00
軽油(kL)	5.33
A重油(kL)	0.00
LPG(t)	114.27
LNG(t)	0.00
都市ガス(千m ³)	0.00
水の使用量(m ³)	14,194

大気への排出量	
SOx(kg)	-
NOx(kg)	639
水域への排出	
COD(kg)	-
窒素(kg)	-
リン(kg)	-

愛媛製造所(新居浜工場)

■ 1888(明治21)年開設 ■ ISO14001(1998年8月取得(統一)) ■ 敷地面積:418,000m²
 ■ 建屋面積:203,000m² ■ 主要製品:鍛圧機械、医療用加速器、運搬機械、機械式駐車場、圧延用ロール



エネルギー使用量	
電力(千kWh)	25,024
ガソリン(kL)	5.99
灯油(kL)	10.57
軽油(kL)	85.71
A重油(kL)	56.00
LPG(t)	484.61
LNG(t)	451.16
都市ガス(千m ³)	0.00
水の使用量(m ³)	638,442

大気への排出量	
SOx(kg)	75
NOx(kg)	459
水域への排出	
COD(kg)	113.0
窒素(kg)	463.0
リン(kg)	7.0

愛媛製造所(西条工場)

■ 1973(昭和48)年開設 ■ ISO14001(1998年8月取得(統一)) ■ 敷地面積:535,036m²
 ■ 建屋面積:82,222m² ■ 主要製品:压力容器、攪拌混合機器、コークス炉移動機械、鉄構



エネルギー使用量	
電力(千kWh)	10,177
ガソリン(kL)	9.20
灯油(kL)	0.00
軽油(kL)	42.65
A重油(kL)	4.50
LPG(t)	220.18
LNG(t)	0.00
都市ガス(千m ³)	0.00
水の使用量(m ³)	73,237

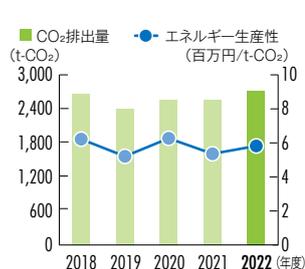
大気への排出量	
SOx(kg)	76
NOx(kg)	289
水域への排出	
COD(kg)	674.3
窒素(kg)	863.7
リン(kg)	104.5

環境負荷データ

[国内グループ会社(製造所外)における環境負荷データ]

新日本造機(株)

主要製品: タービン、ポンプ

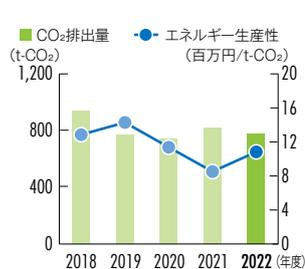


エネルギー使用量	
電力(千kWh)	4,178.9
ガソリン(kL)	0.0
灯油(kL)	303.5
軽油(kL)	4.2
A重油(kL)	0.0
LPG(t)	5.5
都市ガス(千m ³)	0.1
水の使用量(m ³)	17,311

大気への排出量	
Sox(kg)	73
Nox(kg)	774
水域への放出	
COD(kg)	-
窒素(kg)	-
リン(kg)	-

日本スピンドル製造(株)

主要製品: 産業・環境機器



エネルギー使用量	
電力(千kWh)	1,513.4
ガソリン(kL)	0.4
灯油(kL)	0.5
軽油(kL)	0.1
A重油(kL)	1.8
LPG(t)	0.1
都市ガス(千m ³)	32.5
水の使用量(m ³)	11,034

大気への排出量	
Sox(kg)	-
Nox(kg)	-

住友重機械イオンテクノロジー(株)

主要製品: イオン注入装置



エネルギー使用量	
電力(千kWh)	13,123.9
ガソリン(kL)	0.0
灯油(kL)	0.8
軽油(kL)	0.0
A重油(kL)	0.0
LPG(t)	0.0
都市ガス(千m ³)	0.1
水の使用量(m ³)	20,688

大気への排出量	
Sox(kg)	-
Nox(kg)	-

住友ナコフークリフト(株)

主要製品: フォークリフト

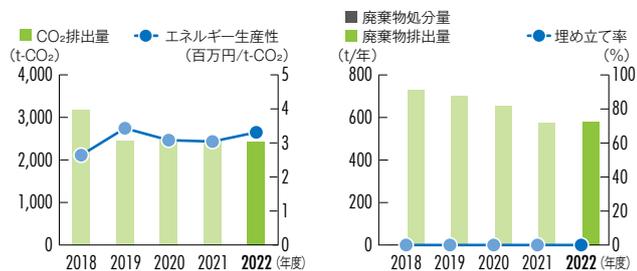


エネルギー使用量	
電力(千kWh)	3,526.0
ガソリン(kL)	6.2
灯油(kL)	0.0
軽油(kL)	7.6
A重油(kL)	0.0
LPG(t)	5.7
都市ガス(千m ³)	271.1
水の使用量(m ³)	9,755

大気への排出量	
Sox(kg)	-
Nox(kg)	-

住友重機械ギヤボックス(株)

■ 主要製品: 減速機 ■ ISO14001(1998年8月取得(統一))

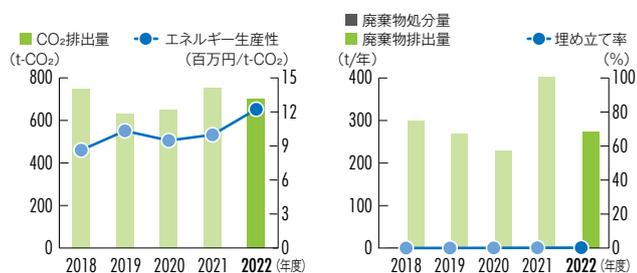


エネルギー使用量	
電力(千kWh)	4,583.5
ガソリン(kL)	0.8
灯油(kL)	0.4
軽油(kL)	1.6
A重油(kL)	0.0
LPG(t)	7.8
都市ガス(千m ³)	127.7
水の使用量(m ³)	8,322

大気への排出量	
Sox(kg)	—
Nox(kg)	210

住友重機械モダン(株)

主要製品: プラスチック押出成形機

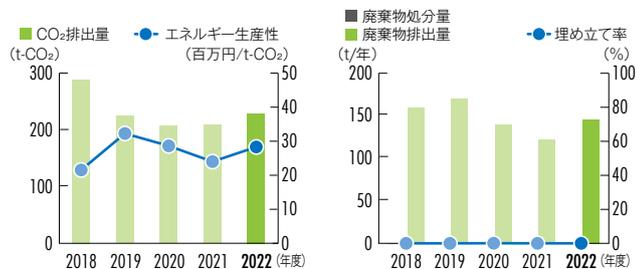


エネルギー使用量	
電力(千kWh)	1,383.4
ガソリン(kL)	0.0
灯油(kL)	0.0
軽油(kL)	21.1
A重油(kL)	0.0
LPG(t)	1.8
都市ガス(千m ³)	0.0
水の使用量(m ³)	2,258

大気への排出量	
Sox(kg)	—
Nox(kg)	—

(株)イズミフードマシナリ

主要製品: 食品機械

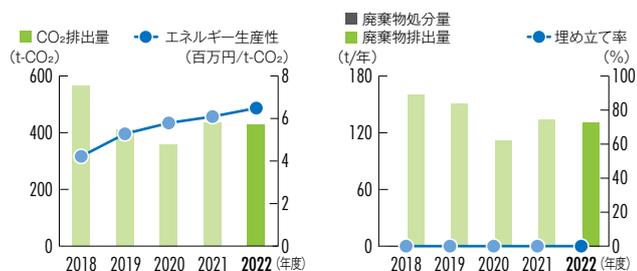


エネルギー使用量	
電力(千kWh)	471.7
ガソリン(kL)	0.0
灯油(kL)	0.0
軽油(kL)	0.0
A重油(kL)	0.4
LPG(t)	0.0
都市ガス(千m ³)	4.3
水の使用量(m ³)	3,730

大気への排出量	
Sox(kg)	—
Nox(kg)	—

新日本ファスナー工業(株)

主要製品: ボルト・ナット、精密ネジ



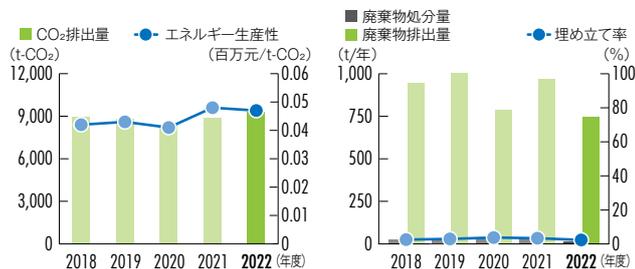
エネルギー使用量	
電力(千kWh)	875.8
ガソリン(kL)	0.4
灯油(kL)	8.3
軽油(kL)	0.0
A重油(kL)	0.0
LPG(t)	0.7
都市ガス(千m ³)	0.0
水の使用量(m ³)	640

大気への排出量	
Sox(kg)	—
Nox(kg)	—
水域への放出	
COD(kg)	2.3
窒素(kg)	—
リン(kg)	—

環境負荷データ

[海外主要グループ会社における環境負荷データ]

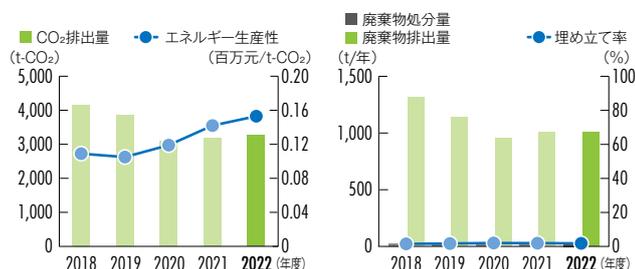
住友重機械(唐山)有限公司 国名:中国 主要製品:変減速機



エネルギー使用量	
用紙(A4 千枚)	686
電力(千kWh)	10,489
ガソリン(kL)	—
重油(kL)	—
軽油(kL)	—
LPG(t)	—
天然ガス(千m³)	1,266
水の使用量(m³)	19,980

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	0.044
SOx排出量(t/年)	0.196
NOx排出量(t/年)	1.368

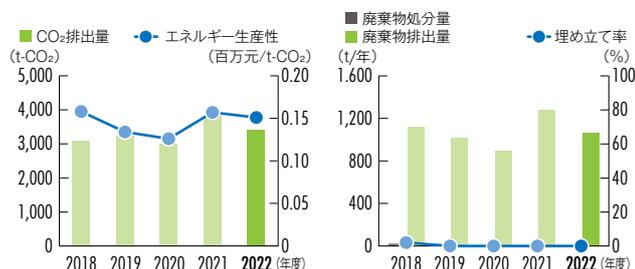
住友重機械減速機(中国)有限公司 国名:中国 主要製品:変減速機



エネルギー使用量	
用紙(A4 千枚)	1,187
電力(千kWh)	5,268
ガソリン(kL)	—
重油(kL)	—
軽油(kL)	—
LPG(t)	—
天然ガス(千m³)	—
水の使用量(m³)	19,535

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	0.933
SOx排出量(t/年)	—
NOx排出量(t/年)	—

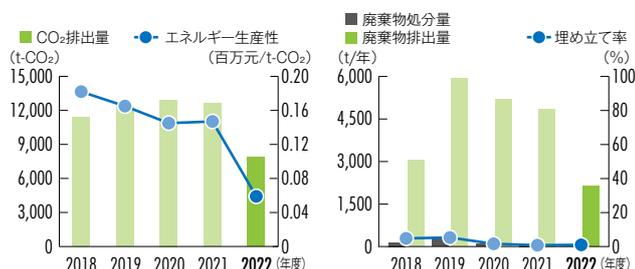
寧波住重機械有限公司 国名:中国 主要製品:プラスチック成形機、変減速機部品



エネルギー使用量	
用紙(A4 千枚)	519
電力(千kWh)	5,169
ガソリン(kL)	—
重油(kL)	—
軽油(kL)	17
LPG(t)	—
天然ガス(千m³)	—
水の使用量(m³)	17,527

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	1.599
SOx排出量(t/年)	—
NOx排出量(t/年)	—

住友建機(唐山)有限公司 国名:中国 主要製品:油圧ショベル、道路機械



エネルギー使用量	
用紙(A4 千枚)	564
電力(千kWh)	9,335
ガソリン(kL)	8
重油(kL)	—
軽油(kL)	31
LPG(t)	12
天然ガス(千m³)	881
水の使用量(m³)	42,036

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	4.722
SOx排出量(t/年)	0.403
NOx排出量(t/年)	1.123

Sumitomo Heavy Industries (Vietnam) Co., Ltd. 国名:ベトナム 主要製品:変減速機、モータ



エネルギー使用量	
用紙(A4 千枚)	5,337
電力(千kWh)	25,394
ガソリン(kL)	—
重油(kL)	—
軽油(kL)	—
LPG(t)	744
天然ガス(千m³)	—
水の使用量(m³)	34,166

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	1.689
SOx排出量(t/年)	—
NOx排出量(t/年)	—

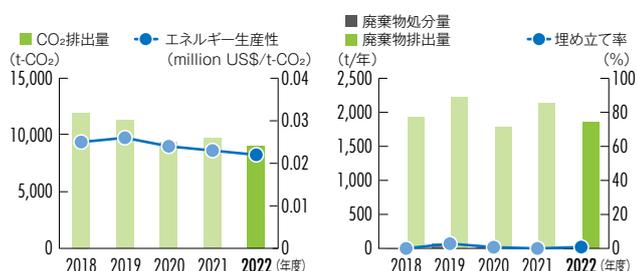
SHI Manufacturing & Service (Philippines) Inc. 国名: フィリピン 主要製品: 精密部品



エネルギー使用量	
用紙(A4千枚)	975
電力(千kWh)	3,221
ガソリン(kL)	3
重油(kL)	9
軽油(kL)	—
LPG(t)	2
天然ガス(千m ³)	—
水の使用量(m ³)	18,333

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	3,273
SOx排出量(t/年)	—
NOx排出量(t/年)	—

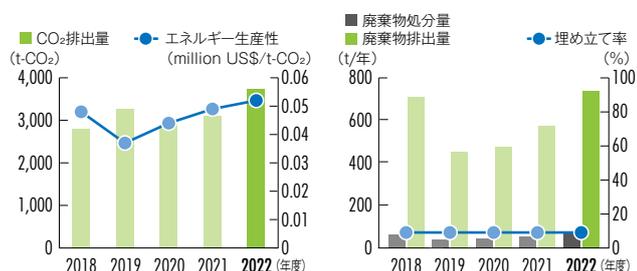
Link-Belt Cranes, L.P., LLLP 国名: アメリカ 主要製品: 建設用クレーン



エネルギー使用量	
用紙(A4千枚)	976
電力(千kWh)	14,186
ガソリン(kL)	—
重油(kL)	—
軽油(kL)	—
LPG(t)	—
天然ガス(千m ³)	1,627
水の使用量(m ³)	19,749

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	18,857
SOx排出量(t/年)	0.028
NOx排出量(t/年)	2,960

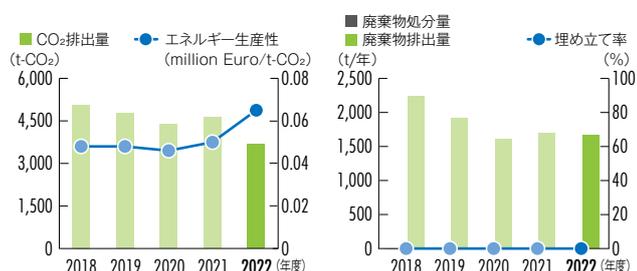
Sumitomo Machinery Corporation of America 国名: アメリカ 主要製品: 変速機



エネルギー使用量	
用紙(A4千枚)	614
電力(千kWh)	6,234
ガソリン(kL)	—
重油(kL)	—
軽油(kL)	—
LPG(t)	187
天然ガス(千m ³)	363
水の使用量(m ³)	2,528

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	0.972
SOx排出量(t/年)	—
NOx排出量(t/年)	—

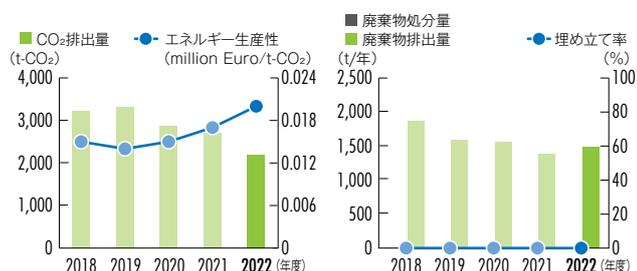
Sumitomo (SHI) Demag Plastics Machinery GmbH 国名: ドイツ 主要製品: プラスチック成形機



エネルギー使用量	
用紙(A4千枚)	4,111
電力(千kWh)	6,992
ガソリン(kL)	—
重油(kL)	—
軽油(kL)	2
LPG(t)	173
天然ガス(千m ³)	334
水の使用量(m ³)	11,501

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	6,000
SOx排出量(t/年)	—
NOx排出量(t/年)	—

Hansen Industrial Transmissions NV 国名: ベルギー 主要製品: 変速機



エネルギー使用量	
用紙(A4千枚)	401
電力(千kWh)	6,354
ガソリン(kL)	—
重油(kL)	—
軽油(kL)	—
LPG(t)	—
天然ガス(千m ³)	517
水の使用量(m ³)	3,416

大気への排出量	
VOC排出量(t/年)	3,198
SOx排出量(t/年)	0.000
NOx排出量(t/年)	0.760